

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-18458

(P2017-18458A)

(43) 公開日 平成29年1月26日(2017.1.26)

|                                      |               |             |
|--------------------------------------|---------------|-------------|
| (51) Int.Cl.                         | F 1           | テーマコード (参考) |
| <b>A 4 7 B 7/00 (2006.01)</b>        | A 4 7 B 7/00  | 3 B 0 5 3   |
| <b>A 4 7 B 9/00 (2006.01)</b>        | A 4 7 B 9/00  |             |
| <b>A 4 7 B 9/04 (2006.01)</b>        | A 4 7 B 9/04  |             |
| <b>A 4 7 B 13/00 (2006.01)</b>       | A 4 7 B 13/00 | B           |
| <b>A 4 7 B 13/10 (2006.01)</b>       | A 4 7 B 13/10 |             |
| 審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 11 頁) 最終頁に続く |               |             |

|           |                              |          |                                        |
|-----------|------------------------------|----------|----------------------------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2015-140297 (P2015-140297) | (71) 出願人 | 000000561                              |
| (22) 出願日  | 平成27年7月14日 (2015.7.14)       |          | 株式会社岡村製作所                              |
|           |                              |          | 神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号                    |
|           |                              | (74) 代理人 | 100060759                              |
|           |                              |          | 弁理士 竹沢 莊一                              |
|           |                              | (74) 代理人 | 100087893                              |
|           |                              |          | 弁理士 中馬 典嗣                              |
|           |                              | (72) 発明者 | 前田 明洋                                  |
|           |                              |          | 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号                    |
|           |                              |          | 株式会社岡村製作所内                             |
|           |                              | Fターム(参考) | 3B053 NB01 NB06 NC01 ND01 NN01<br>NN02 |

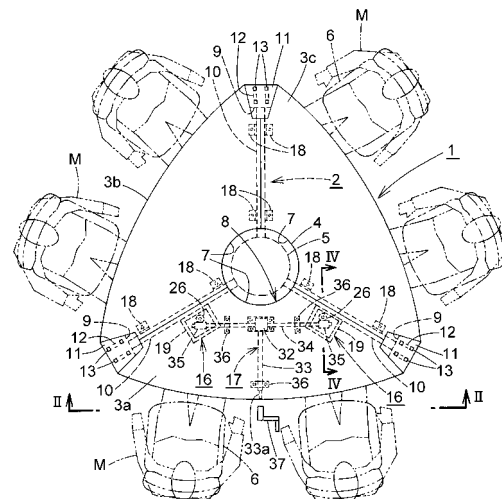
(54) 【発明の名称】 テーブル装置

(57) 【要約】

【課題】 グループワーク等に適した簡易的な構成とすることにより、管理が容易で安価であるとともに、代表メンバー等がプレゼンテーション等を行う際の使い勝手のよいテーブル装置を提供する。

【解決手段】 床面より起立する天板支持体2と、この天板支持体2により支持され、かつ側縁同士が互いに当接または近接するようにして、1点を中心とする円周方向に並べて配置した3個の天板3a、3b、3cとを備え、各天板3a、3b、3cは、それぞれの外周縁の幅寸法が、一人以上の使用者が使用可能な寸法に形成され、かつ少なくとも1個の天板3aを、上面が他の天板3b、3cの上面よりも上方に位置するように高さ変更可能とする。

【選択図】 図1



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

床面より起立する天板支持体と、この天板支持体により支持され、かつ側縁同士が互いに当接または近接するようにして、1点を中心とする円周方向に並べて配置した少なくとも3個の天板とを備え、

前記各天板は、それぞれの外周縁の幅寸法が、一人以上の使用者が使用可能な寸法に形成され、かつ少なくとも1個の天板を、上面が他の天板の上面よりも上方に位置しうるように高さ変更可能としたことを特徴とするテーブル装置。

## 【請求項 2】

全天板のなす平面形状を、多角形としたことを特徴とする請求項 1 に記載のテーブル装置。 10

## 【請求項 3】

全天板のなす平面形状を、各天板の外周縁が外方に凸円弧状に湾曲されたほぼ正三角形としたことを特徴とする請求項 2 に記載のテーブル装置。

## 【請求項 4】

全天板のなす平面形状を、ほぼ円形としたことを特徴とする請求項 1 に記載のテーブル装置。

## 【請求項 5】

天板支持体は、互いに隣接する天板の両側部の外端側に配置された上下方向の複数の脚柱と、前記互いに隣接する天板の両側部を支持しうるように、前記各脚柱同士を連結する連結部材とを有するものとしたことを特徴とする請求項 1～4 のいずれかに記載のテーブル装置。 20

## 【請求項 6】

互いに隣接して配置された天板の中央部の床面より、上下方向の中央脚柱を起立させ、この中央脚柱に、連結部材の内端部を結合したことを特徴とする請求項 5 に記載のテーブル装置。

## 【請求項 7】

互いに隣接して配置された天板の中央部に貫通孔を設け、中央脚柱を前記貫通孔を挿通して上方に突出させ、前記中央脚柱の上端面に、各天板よりも上方に位置する中央天板を設けたことを特徴とする請求項 6 に記載のテーブル装置。 30

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、例えばオフィスや学校、その他の公共施設等において、少人数によりグループワークを行う際に用いられるテーブル装置に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

オフィスや学校、その他の公共施設等においては、少人数(例えば3～9人)が集まってディスカッションしたり、協同で学習したり、代表メンバーが他の複数のメンバーに対しプレゼンテーションや講義(以下、これらを総称してグループワークという)等を行ったりする場合がある。このようなグループワークに適した什器として、例えば特許文献1に記載されているように、特定形状の天板を備える複数のテーブル同士を互いに位置を異ならせて配置することにより、種々のグループワークに適した所望のレイアウトに変更しうるようにしたテーブル装置(テーブルシステム)がある。 40

## 【先行技術文献】

## 【特許文献】

## 【0003】

【特許文献1】特開2008-109961号公報

## 【発明の概要】

## 【発明が解決しようとする課題】 50

## 【0004】

上記特許文献1に記載されているテーブル装置においては、複数のテーブルを用意し、個々のテーブルをグループワークに適した所望のレイアウトに配置する必要があるため、個々のテーブルの管理やレイアウト作業が煩雑であるとともに、テーブル装置がコスト高となる問題がある。

また、複数のテーブルにおける天板の高さは一定であるので、例えばグループワークの代表メンバーが使用する天板の高さを高くし、代表メンバーが立位で他の複数のメンバーに対しプレゼンテーションや講義等を行う際の使い勝手が悪い。

## 【0005】

本発明は、上記問題点に鑑みてなされたもので、グループワーク等に適した簡易的な構成とすることにより、管理が容易で安価であるとともに、代表メンバー等がプレゼンテーション等を行う際の使い勝手のよいテーブル装置を提供することを目的としている。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0006】

本発明によると、上記課題は、次の各項のようにして解決される。

(1) 床面より起立する天板支持体と、この天板支持体により支持され、かつ側縁同士が互いに当接または近接するようにして、1点を中心とする円周方向に並べて配置した少なくとも3個の天板とを備え、前記各天板は、それぞれの外周縁の幅寸法が、一人以上の使用者が使用可能な寸法に形成され、かつ少なくとも1個の天板を、上面が他の天板の上面よりも上方に位置するように高さ変更可能とする。

## 【0007】

このような構成によると、天板支持体により支持された少なくとも3個の天板におけるそれぞれの外周縁の幅寸法を、一人以上の使用者が使用可能な寸法に形成し、各天板を、側縁同士が互いに当接または近接するようにして、1点を中心とする円周方向に並べて配置しているので、グループワーク等に適した簡易的で安価なテーブル装置を提供することができ、かつ一つのテーブル装置を使用して、グループワーク等を効果的に、かつ効率的に行うことができる。

また、少なくとも1個の天板を、上面が他の天板の上面よりも上方に位置するように高さ変更可能としたので、高さを高くした天板を、例えばグループの代表メンバーが立位で使用する演台とし、代表メンバー等が他の高さの低い天板を椅子に着座して使用する他の複数の使用者に対し、プレゼンテーションや講義等を行い易くなるので、テーブル装置の使い勝手が向上する。

## 【0008】

(2) 上記(1)項において、全天板のなす平面形状を、多角形とする。

## 【0009】

このような構成によると、テーブル装置としての体裁がよくなるとともに、各天板を使用する使用者同士をほぼ対面させることができるので、対面する使用者同士のディスカッション等が行い易くなる。

## 【0010】

(3) 上記(2)項において、全天板のなす平面形状を、各天板の外周縁が外方に凸円弧状に湾曲されたほぼ正三角形とする。

## 【0011】

このような構成によると、テーブル装置としての体裁がよくなるとともに、各天板を使用する使用者同士を、対面距離を比較的短くしてほぼ対面させることができるので、対面する使用者同士のディスカッション等がさらに行い易くなる。

## 【0012】

(4) 上記(1)項において、全天板のなす平面形状を、ほぼ円形とする。

## 【0013】

このような構成によると、テーブル装置としての体裁がよくなるとともに、各天板を使用する使用者同士を対面させ、かつ互いに接近させて隣接させることができるので、使用

10

20

30

40

50

者同士のディスカッション等が行い易くなる。

【0014】

(5) 上記(1)～(4)項のいずれかにおいて、天板支持体は、互いに隣接する天板の両側部の外端側に配置された上下方向の複数の脚柱と、前記互いに隣接する天板の両側部を支持するように、前記各脚柱同士を連結する連結部材とを有するものとする。

【0015】

このような構成によると、天板支持体の構成が比較的簡単であるので、安価なテーブル装置とすることができる。

【0016】

(6) 上記(5)項において、互いに隣接して配置された天板の中央部の床面より、上下方向の中央脚柱を起立させ、この中央脚柱に、連結部材の内端部を結合する。

10

【0017】

このような構成によると、各連結部材の内端部が中央脚柱に結合されているので、天板支持体の強度を大とすることができる。

【0018】

(7) 上記(6)項において、互いに隣接して配置された天板の中央部に貫通孔を設け、中央脚柱を前記貫通孔を挿通して上方に突出させ、前記中央脚柱の上端面に、各天板よりも上方に位置する中央天板を設ける。

【0019】

このような構成によると、各天板よりも上方に位置する中央天板に、例えば天板上で使用されるパソコン等のディスプレイまたはディスプレイを支持する支持アーム等を取付けることにより、ディスプレイを視認し易い高さに支持することができる。

20

【発明の効果】

【0020】

本発明によると、グループワーク等に適した簡易的な構成とすることができるので、管理が容易で安価であるとともに、代表メンバー等がプレゼンテーション等を行う際の使い勝手のよいテーブル装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0021】

【図1】本発明に係るテーブル装置の平面図である。

30

【図2】図1におけるII-II線矢視図である。

【図3】コネクタ取付部の拡大平面図である。

【図4】図1のIV-IV線における拡大縦断面図である。

【図5】同じく、昇降機構により天板を上昇させたときの拡大縦断面図である。

【図6】ギヤボックス内に収容されたギヤの拡大平面図である。

【図7】一つの天板の高さを高くしたときのテーブル装置の側面図である。

【図8】天板の形状を変更したテーブル装置の変形例を示す平面図である。

【図9】同じく、天板の形状を変更したテーブル装置の他の変形例を示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0022】

40

以下、本発明の一実施形態を、図面に基づいて説明する。

図1及び図2に示すように、本実施形態に係るテーブル装置1は、床面より起立する天板支持体2と、この天板支持体2の上面により支持された同形をなす3個の天板3a、3b、3cと、各天板3a、3b、3cの中央部の床面に、各天板3a、3b、3cを円周方向に隣接して並べて配置した際にそれらの中央部を貫通して上方に突出するように載置され、上端面に円形をなす中央天板4が取付けられた円筒形の中央脚柱5とを備えている。なお、以下においては、各天板3a、3b、3cを使用する使用者側、すなわち各天板3a、3b、3cと対面するように配置される椅子6への着座者側を前方、その反対側である中央部側を後方として説明する。

【0023】

50

各天板 3 a、3 b、3 c の平面形状は、前縁(外周縁)が外方にほぼ凸円弧状に湾曲する概ね三角形をなしている。なお、この実施例においては、各天板 3 a、3 b、3 c の使用者側(前縁側)の幅寸法を、それぞれ、最大 3 個の椅子 6 を幅方向に並べて配置可能な寸法とし、天板全体で最大 9 名のメンバー M が、グループワークしうる大きさとされている。各天板 3 a、3 b、3 c は、それらの前後方向の直線状をなす両側縁同士が互いに当接または近接するようにして、中央脚柱 5 を中心として円周方向に隣接させて並べ、天板支持体 2 により支持されている。

#### 【0024】

各天板 3 a、3 b、3 c を天板支持体 2 により支持した状態において、全天板のなす平面形状は、多角形、すなわち概ね正三角形状(おにぎり形またはヴァンケル形ロータリエンジンのロータ形状)をなしている。各天板 3 a、3 b、3 c の上方に位置する中央天板 4 には、例えば各天板 3 a、3 b、3 c 上で使用されるパソコン等のディスプレイを支持するための支持アーム(いずれも図示略)等が取り付けられ、中央天板 4 により、ディスプレイを視認し易い高さに支持可能となっている。

#### 【0025】

各天板 3 a、3 b、3 c の後端には、前方に円弧状に凹入する切欠部 7 が設けられ、互いに隣接する天板 3 a、3 b、3 c の切欠部 7 が連続することにより、中央部には、中央脚柱 5 が貫通する、中央天板 4 の外径よりも僅かに大径の上下方向の貫通孔 8 が形成されている。

#### 【0026】

天板支持体 2 は、互いに隣接する天板 3 a、3 b、3 c の両側部の前端部側に、円周方向へ互いに 120 度離間させて配置された上下方向の 3 個の脚柱 9 と、前端が各脚柱 9 の後面に固着されるとともに、後端が中央脚柱 5 の上半部外周面に固着された 3 個の連結部材 10 とからなり、各脚柱 9 同士は、中央脚柱 5 及び 3 個の連結部材 10 を介して互いに連結されている。各連結部材 10 の厚さは、互いに隣接する天板 3 a、3 b、3 c の両側部下面を支持しうる寸法とされている。

#### 【0027】

各脚柱 9 の上端には、コネクタ取付部材 11 が、上面の高さが互いに隣接する天板 3 a、3 b、3 c の上面より若干高くなるように固定されている。なお、互いに隣接する天板 3 a、3 b、3 c の前端部の各脚柱 9 への対向部は、コネクタ取付部材 11 が露出して上方から視認しうるように、その前縁を除く外周縁の形状に沿って切り欠いてある。

#### 【0028】

図 3 に拡大して示すように、各コネクタ取付部材 11 には、各天板 3 a、3 b、3 c 上で使用されるパソコン等の電気機器の電源ケーブルのプラグ差込用の複数の電源コンセント 12、及び通信ケーブル(LAN ケーブル)の端子を接続するための複数の通信用差込口(LAN ポートまたは USB ポート) 13 が、差込口が上方を向くようにして取り付けられている。なお、以下においては、これらの電源コンセント 12 及び通信用差込口 13 を、総称してコネクタという。電源コンセント 12 及び通信用差込口 13 に接続された配線ケーブル 14 は、中空をなす脚柱 9 の内部に落とし込んだのち、連結部材 10 の内部に形成された前後両方向に開口する配線ダクト 15 を通して、中央脚柱 5 の内部に引き込まれ、床面等に設けた中継コネクタ(図示略)等に接続されている(図 2、図 4 参照)。

#### 【0029】

3 個の天板 3 a、3 b、3 c のうちの一つ、例えば図 1 における手前側の天板 3 a は、その両側部を支持する連結部材 10、10 の対向面に設けられた左右 1 対の昇降ユニット 16、16 と、天板 3 a の下面に設けられた操作機構 17 とにより昇降させうるようになっている。他の 2 個の天板 3 b、3 c の両側部は、各連結部材 10 の側面上部に取り付けられた複数の L 字状固定具 18 により、連結部材 10 に固定されている。

#### 【0030】

図 1 及び図 4～図 6 に示すように、左右の昇降ユニット 16 (同一構成であるので、図 4、図 5 については、右方のもののみ図示する)は、連結部材 10 の前後方向の中間部の

10

20

30

40

50

側面に固着された、連結部材 10 の高さよりも低い有底角管よりなる固定ガイドケース 19 と、固定ガイドケース 19 内に嵌合されて上下方向に移動可能にガイドされ、上端が天板 3 a の下面に固定された角管よりなる可動ケース 20 と、可動ケース 20 内に収容された昇降機構 21 とを備えている。

#### 【0031】

昇降機構 21 は、固定ガイドケース 19 内において、その内底面に下端部が固定され、上半部に上下方向を向く雌ねじ孔 22 を有する雌ねじ筒 23 と、上端部を除いた外周面に雄ねじ部 24 を有し、この雄ねじ部 24 を雌ねじ筒 23 の雌ねじ孔 22 に螺合させた上下方向のねじ軸 25 と、ねじ軸 25 の上端部に固嵌された従動ねじ歯車 26 とを備えている。

10

#### 【0032】

ねじ軸 25 の上端部には、スラスト軸受 27 と、その下面に当接するスラストワッシャ 28 とが圧嵌されており、スラスト軸受 27 の上面は、天板 3 a の下面に形成された下方に開口する凹孔 29 内において、その上面に当接している。これにより、天板 3 a の側端部は、ねじ軸 25 を介して雌ねじ筒 23 と固定ガイドケース 19 により支持されるとともに、ねじ軸 25 の上端部は、スラスト軸受 27 により、天板 3 a の下面に対し回転自在となっている。

#### 【0033】

上述した操作機構 17 は、天板 3 a の後方寄りの下面の中央部に固定され、内部に駆動傘歯車 30 と、これに噛合する従動傘歯車 31 とが収容されたギヤボックス 32 (図 6 参照) と、駆動傘歯車 30 に後端部が連結された前後方向を向く操作杆 33 と、従動傘歯車 31 に連結された左右両側方を向く連動杆 34 と、連動杆 34 における可動ケース 20 内に進入する両側端部に固着され、左右のねじ軸 25 の従動ねじ歯車 26 に軸線を直交させて噛合する駆動ねじ歯車 35、35 (図 1、図 4 参照) とを備えている。操作杆 33 及び連動杆 34 は、天板 3 a の下面に固定された軸受部材 36 により回転自在に支持されている。操作杆 33 の前端部には、図 1 に示すような操作ハンドル 37 が差し込み可能な非円形軸部 33 a が形成され、この非円形軸部 33 a に差し込んだ操作ハンドル 37 により、操作杆 33 を回転させるようになっている。なお、上記駆動傘歯車 30 と駆動ねじ歯車 35 とをウォームとし、駆動傘歯車 30 に噛合する従動傘歯車 31 と、駆動ねじ歯車 35 に噛合する従動ねじ歯車 26 とを、それぞれウォームホイールとしてもよい。

20

30

#### 【0034】

天板 3 a の高さを変更する際は、操作杆 33 を操作ハンドル 37 により正面視時計方向に回転させる。すると、ギヤボックス 32 内の駆動傘歯車 30 が回転し、それに噛合している従動傘歯車 31 とそれに連結された連動杆 34 が側面視時計方向に回転する。

#### 【0035】

連動杆 34 が回転すると、図 4、図 5 に示すように、駆動ねじ歯車 35 と噛合している従動ねじ歯車 26、及び雌ねじ筒 23 に螺合されているねじ軸 25 が平面視反時計方向に回転する。すると、ねじ軸 25 が雌ねじ筒 23 に対し上方に移動し、左右のねじ軸 25 の上端部により支持されている天板 3 a が、その下面に固定されている可動ケース 20 と共に上昇させられる。これにより、天板 3 a の高さを、上面が他の天板 3 b、3 c の上面よりも上方に位置するように高くすることができる。

40

#### 【0036】

このように、1 つの天板 3 a の高さを、他の天板 3 b、3 c よりも高くなるように高さ変更可能とすると、図 7 に示すように、高さを高くした天板 3 a を、例えば講演用の演台として使用することができる。すなわち、グループの代表メンバー M1 等が天板 3 a を立位で使用するにより、他の高さの低い天板 3 b、3 c を椅子 6 に着座して使用する他の複数のメンバー M に対し、プレゼンテーションや講義等を行い易くなり、テーブル装置 1 としての使い勝手が向上する。

#### 【0037】

以上説明したように、上記実施形態においては、複数のメンバー M が使用可能な形状、

50

幅寸法とされた天板 3 a、3 b、3 c を、互いに隣接させて天板支持体 2 により支持しているため、グループワークに適した簡易的で安価なテーブル装置を提供することができ、かつ一つのテーブル装置を使用して、グループワークを効果的に、かつ効率的に行うことができる。従って、従来のように、個々のテーブルを用意して、それらをグループワークに適したレイアウトに配置する必要はなく、煩雑なテーブルのレイアウト作業や管理が不要となる。しかも、全天板の平面形状は、概ね正三角形(おにぎり形)を呈しているため、テーブル装置としての体裁が良好であるとともに、各天板 3 a、3 b、3 c を使用するメンバー M 同士をほぼ対面させることができ、かつ対面距離も比較的短くなるため、対面するメンバー M 同士のディスカッション等が行い易くなる。

#### 【0038】

また、互いに隣接する天板 3 a、3 b、3 c の前端部に配置した脚柱 9 の上端に、上面の高さが互いに隣接する天板 3 a、3 b、3 c の上面より若干高いコネクタ取付部材 11 を設け、このコネクタ取付部材 11 に複数のコネクタ、すなわち各天板 3 a、3 b、3 c 上で使用されるパソコン等の電気機器の電源ケーブルのプラグや通信ケーブルの端子を差し込むための電源コンセント 12 や通信用差込口 13 を、差込口が上方を向くように取り付けてあるので、電気機器の電源ケーブルのプラグや通信ケーブルの端子を、電源コンセント 12 や通信用差込口 13 に、上方より視認しながら簡単に差し込むことができ、電気機器を使用したグループワークを効率よく行うことができる。また、電源ケーブルや通信ケーブルの端部が、互いに隣接する天板 3 a、3 b、3 c の前縁より前方にはみ出さないため、はみ出たケーブルに他物が引っ掛かるおそれはなく、かつ体裁もよくなる。

#### 【0039】

本発明は、上記実施形態に限定されるものではない。

上記実施形態においては、1 個の天板 3 a のみを高さ変更可能としているが、2 個または全ての天板 3 a、3 b、3 c の高さを、上記と同様の昇降機構 21 と操作機構 17 により変更しうるようにしてもよい。また、天板 3 a の高さ変更手段としては、上記のような手動操作によるものに代えて、ロック機構付きのガススプリングを用いた高さ変更手段や、ねじ軸をモータにより昇降駆動する電動式の高さ変更手段等を用いることもできる。

#### 【0040】

また、上記実施形態では、各天板 3 a、3 a、3 c を、前縁が外方にはほぼ凸円弧状に湾曲する概ね三角形をなす形状とし、全天板の形状が、平面視ほぼ正三角形(おにぎり形)となるようにしているが、図 8 及び図 9 のような形状とすることもある。すなわち、図 8 に示すテーブル装置においては、各天板 3 a、3 b、3 c の形状を、平面視ほぼ二等辺三角形とし、全天板のなす平面形状が、正三角形に近似するようにしてある。また、図 9 に示すテーブル装置においては、各天板 3 a、3 b、3 c を、平面視ほぼ扇状とし、全天板のなす平面形状が、円形をなすようにしてある。図 8 及び図 9 のような形状のテーブル装置としても、各天板 3 a、3 b、3 c を使用するメンバー M 同士をほぼ対面させることができるため、対面するメンバー M 同士のディスカッション等が行い易くなる。なお、図示は省略するが、図 8 に示すテーブル装置においては、例えばほぼ三角形をなす天板を 4 個使用して、全天板の平面形状をほぼ正方形とすることもできる。また、図 9 に示すテーブル装置においては、天板の数を 3 個以上とすることもできる。

#### 【0041】

さらに、上記実施形態においては、各天板 3 a、3 b、3 c の中央部に、中央脚柱 5 及び中央天板 4 を有するものとしたが、これらの中央脚柱 5 及び中央天板 4 を省略して実施することもできる。この際には、各連結部材 10 の後端部(内端部)同士を、互いに連結すればよい。

#### 【0042】

コネクタ取付部材 11 を省略し、各天板 3 a、3 b、3 c の上面より突出する脚柱 9 の上端面に、電源コンセント 12 や通信用差込口 13 等のコネクタを直接取付けてもよい。また、コネクタ取付部材 11 の上面に、カバーを、着脱可能またはヒンジ等により上下に回動しうるように取付け、電源コンセント 12 や通信用差込口 13 を使用しないときには

、それらをカバーにより閉塞しうるようにしてもよい。

【0043】

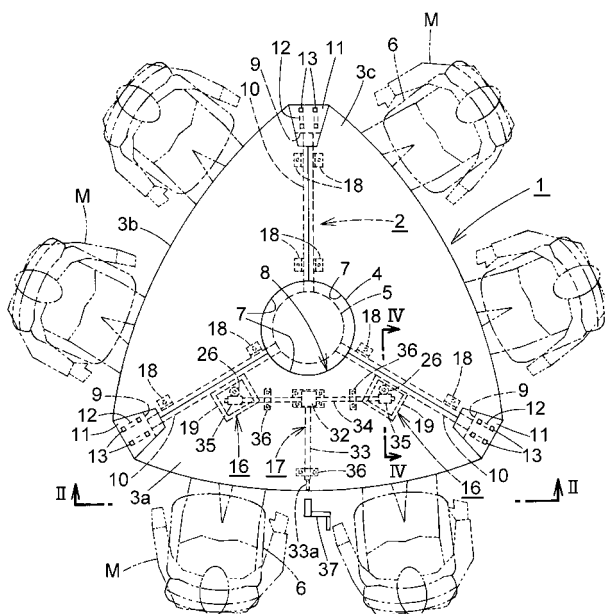
本発明のテーブル装置は、グループワーク以外の用途、例えば食事用等のテーブルとしても使用可能である。

【符号の説明】

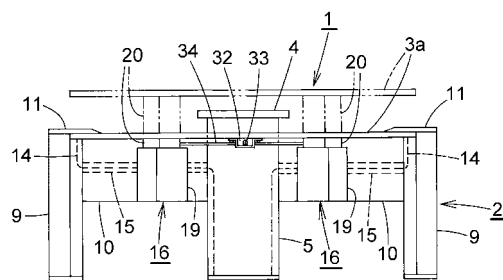
【0044】

|             |          |    |
|-------------|----------|----|
| 1           | テーブル装置   |    |
| 2           | 天板支持体    |    |
| 3 a、3 b、3 c | 天板       |    |
| 4           | 中央天板     | 10 |
| 5           | 中央脚柱     |    |
| 6           | 椅子       |    |
| 7           | 切欠部      |    |
| 8           | 貫通孔      |    |
| 9           | 脚柱       |    |
| 10          | 連結部材     |    |
| 11          | コネクタ取付部材 |    |
| 12          | 電源コンセント  |    |
| 13          | 通信用差込口   |    |
| 14          | 配線ケーブル   | 20 |
| 15          | 配線ダクト    |    |
| 16          | 昇降ユニット   |    |
| 17          | 操作機構     |    |
| 18          | 固定具      |    |
| 19          | 固定ガイドケース |    |
| 20          | 可動ケース    |    |
| 21          | 昇降機構     |    |
| 22          | 雌ねじ孔     |    |
| 23          | 雌ねじ筒     |    |
| 24          | 雄ねじ部     | 30 |
| 25          | ねじ軸      |    |
| 26          | 従動ねじ歯車   |    |
| 27          | スラスト軸受   |    |
| 28          | スラストワッシャ |    |
| 29          | 凹孔       |    |
| 30          | 駆動傘歯車    |    |
| 31          | 従動傘歯車    |    |
| 32          | ギヤボックス   |    |
| 33          | 操作杆      |    |
| 33 a        | 非円形軸部    | 40 |
| 34          | 連動杆      |    |
| 35          | 駆動ねじ歯車   |    |
| 36          | 軸受部材     |    |
| 37          | 操作ハンドル   |    |
| M           | メンバー     |    |
| M 1         | 代表メンバー   |    |

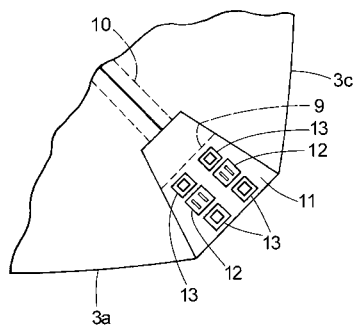
【図 1】



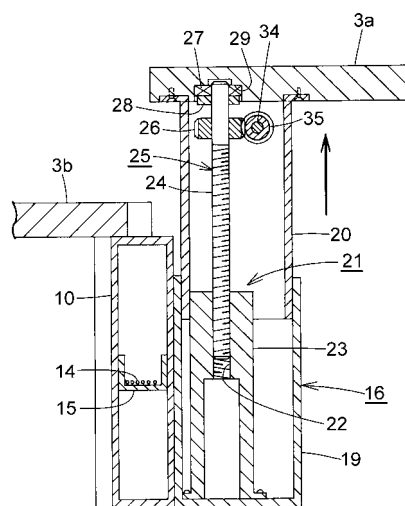
【図 2】



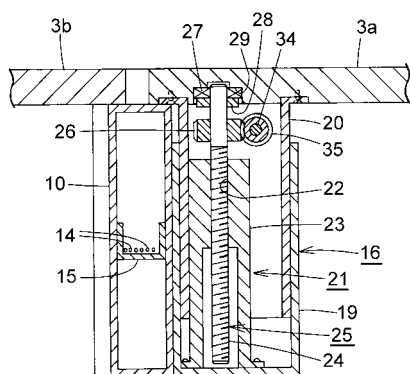
【図 3】



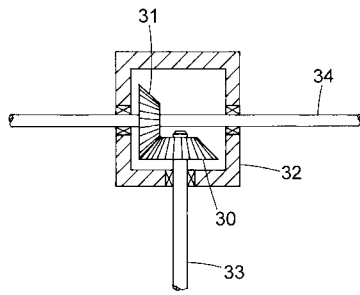
【図 5】



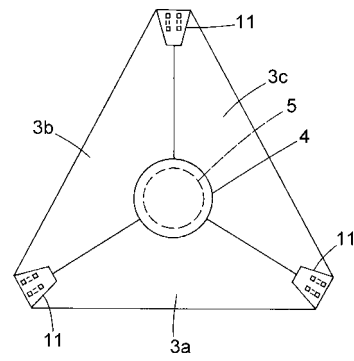
【図 4】



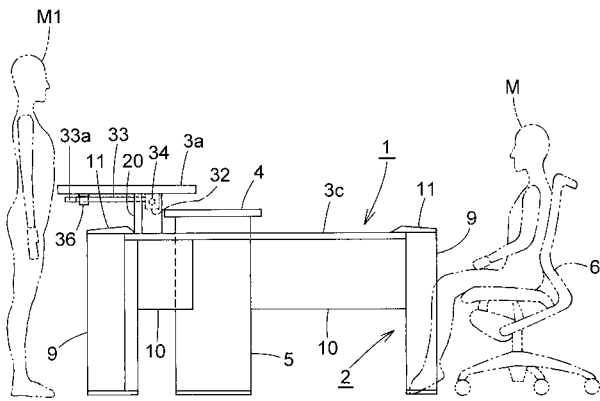
【図 6】



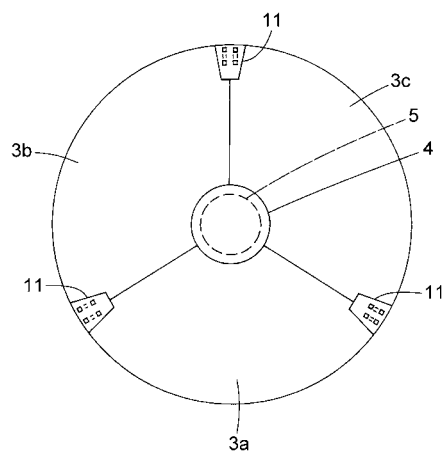
【図 8】



【図 7】



【図 9】



---

フロントページの続き

|                |              |                  |                      |             |
|----------------|--------------|------------------|----------------------|-------------|
| (51)Int.Cl.    |              | F I              |                      | テーマコード (参考) |
| <b>A 4 7 B</b> | <b>97/00</b> | <b>(2006.01)</b> | <b>A 4 7 B 97/00</b> | <b>M</b>    |